

津嘉山 栞さん

Leiden University (the Netherlands)

Major: International Relations & Organisations

美和さんとの進路設計と留学準備は”進路相談“以上に意義深い時間でした。今のオランダでの学生生活は、一日一日が私に自信をつけてくれるような、かけがえのないものです。美和さんに会った、高校三年生の時には海外旅行にも行った事がない、海外大学進学とは程遠い、いわゆる進学校出身の私に留学ができるとは思ってもみませんでした。それでも理想の大学での学校生活を実現できたのは、美和さんの”進路指導“の手腕と、生徒に向き合って下さる姿勢のおかげに他なりません。

まず、言うまでもなく美和さんはヨーロッパの大学の、そしてまだ自分が何をしたいかなんてわかっていない学生を相手にすることのエキスパートです。高校生の時の私は自分が何を勉強したいのか、私の強みは何か、わかっていませんでした。そこで美和さんはまず”私“がどんな人間か、そして私が本当にやりたいことは何か、私に寄り添い模索してくださいました。そのうえで私に合うような大学、学部を提案してくださいました。挙がった学部は必ずしも同じ学問ではありませんでした。しかしどれも私の好奇心を掻き立てるものでした。自分が何学部に行きたいか、何大学に行きたいか聞かれるだけのありがちな進路指導では出会えなかっただろう選択肢に、私は感動しました。出願時にトラブルがあった際は、美和さんのネットワークや経験を感じさせる心強いサポートをしてくださいました。私の弁護士のように大学との間に入ってくださり、最後まで交渉してくださいました。その間も私がやらねばならないこと、そしてどのような状況なのか、などといった状況を丁寧に説明してくださいさり、そして動転している私にも寄り添ってくださる、進路指導以上の作戦会議のようなサポートをしてくださいました。私一人ではとうに諦めていたと思います。美和さんは私以上に私の可能性を信じて下さいました。

そして、美和さんとの面談は、私が今後の人生を切り開いていく上で大切にしたい色々な言葉をかけてくださいました。特に印象的だったのは、志望大学のホームページを見て、いかに私が大学の理想の生徒像に合っているのかをアピールするような志望動機を書く私に、志望動機は自分を知ってもらい、そして大学に私があっているのか、私がそこで成長できる見込みを見てもらうものだということを気づかせてくださったことです。私は、不合格を大変恐れていて、合格しないことで自分が否定されてしまうような気がしていました。しかし、不合格も私に合わなかったただ、と考えられるようになり、挑戦することが楽しいと思えるようになりました。私がオランダに行く前に初めは失敗するもの、カルチャーショックも当たり前とって下さったのも大変勇気づけられました。

最後に、今後一人の大人としてたくさんの大きな決断をしたいと思います。その第一歩を北村さんに見守っていただけたことは、本当に幸せなことだったと思います。私はヨーロッパでしかできない経験をたくさんして、将来の行動で恩返しをしたいと思います。美和さん、本当にありがとうございました。